2021年7月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第534号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

戦国史料『影印武功夜話』全21巻完結 原本の公開で研究の深化を

文・ブックショップマイタウン　舟橋武志

完結した『影印武功夜話』全21巻

秘本、伊勢湾台風で世に出る

戦国史料『武功夜話』全21巻の影印本をようやく完結させることができた。当初、月に1巻で約2年と見込んだが、新型コロナの流行や制作の手間暇、資金繰りなどの諸事情により、結局、3年がかりになってしまった。しかし、いまはなんとか完結させることができ、ほっと一息ついているところだ。

『武功夜話』は昭和34（1959）年9月26日、東海地方を襲った伊勢湾台風で愛知県江南市前野町の旧家吉田（旧姓・前野）家の土蔵が壊れ、その中から偶発的に発見された。同家では「土蔵の中にたくさんの書類がある」と言い伝えられてきたそうだが、このときになって初めて同書の存在を知ることになった。後になって発見のされかた以上に、書かれている内容が衝撃的だと分かってくる。

最初に目を付けたのが江南市文化財保護委員で江南郷土史研究会会長の滝喜義氏だった。このとき伊勢湾台風からすでに10数年が経過していた。滝氏は日ごろの研究成果を毎月出ている会報に発表され、一地域の小さな媒体でありながら、研究者の一部からは強い関心を寄せられた。

発見から18年後、今度はご当家の吉田蒼生雄（たみお）氏が長年の努力のすえ『武功夜話』を全訳・活字化され、関連史料なども含めた全5巻の構成で新人物往来社から出版された。これによって同書の全貌が初めて明らかになり、この種の本としては異例の売れ行きとなった。

同書を真っ先に活用したのは著名な作家たちだった。遠藤周作氏の『男の一生』や『決戦の時』、津本陽氏の『下天は夢か』『夢のまた夢』はそうした中の代表作と言える。数あるNHKの大河ドラマも、戦国時代になると『武功夜話』を参考にしていることが多い。

信長・秀吉の活躍ぶりを活写

『武功夜話』とは一体、どんな本なのか。それに触れる前にまずはこれを秘蔵してきた吉田（明治になって改姓、以後は前野）家について語らなければならない。

前野家は尾張平氏に属した武門の家で、先祖は北面の武士として上洛している。戦国時代に出る13代前野小次郎宗康は岩倉城（城主・織田信安）の軍（いくさ）奉行を務め、子に孫九郎雄吉（かつよし）、小右衛門長康、小兵衛勝長がいた。江戸時代に入って『武功夜話』を著すことになる孫四郎雄翟（かつかね1587~1658）は孫九郎の孫に当たる。

3兄弟のうち、長男の孫九郎は信長とその子信雄に仕え、二男の長康は蜂須賀小六とともにいまだ世に出ぬ秀吉を支え、三男の小兵衛は佐々成政の家老職に就いている。彼らは天下人に駆け上る若い信長や秀吉らのそばにおり、同家には様々な情報がもたらされることにもなる。

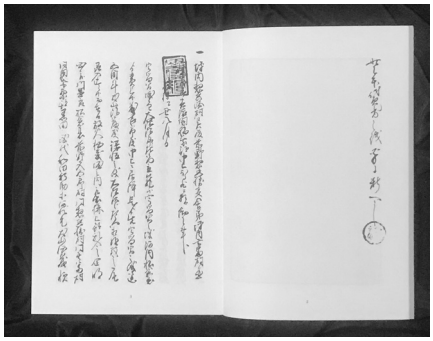
孫四郎に『武功夜話』を書かせたのは武門で鳴らしてきた前野家も、江戸時代に入ると刀を鍬に代え、百姓（庄屋）にならざるを得なかったからだ。同家には小右衛門の覚え書き『五宗記』をはじめ伝来の本や古文書が多くあり、父祖から聞かされてきた話、さらには戦場で苦楽をともにした生き残りの人たちにも聞きただすなどし、寛永元年（1624）から数年かけてまとめ上げている。

原本は全21巻、3000頁をはるかに超える大冊だ。これが活字本として市販されるや、そのボリュームと詳細な記述に関心が集まり、先に挙げた作家らの数々の作品が世に出ることになった。信長や秀吉といえども、若いころの行動はよく分かっておらず、それほ

ど鮮烈な内容だった。

『武功夜話』が話題になればなるほど、逆に疑問や批判も出るようになってきた。その最たるものは偽書と言われ出したことである。いまに残る『武功夜話』は孫四郎の直筆ではなく、後に書き写されたものだ。同家には3巻本、6巻本、8巻本などと十種類近くの『武功夜話』があるが、今回利用した21巻本が唯一の完本である。

『武功夜話』の著者、前野孫四郎（吉田家蔵）



影印本の巻頭「他見無用」の注意書きがある

『信長公記』首巻の捏造・隠蔽を喝破

信長の事績は太田牛一の書いた『信長公記』が第一級の史料とされてきた。上洛する以前の「首巻」と、上洛して本能寺で没するまでの15年間を15巻にした「本文」とから成る。この期間は『武功夜話』の記述とも重なっており、両書を読み比べられる意味でも貴重な史料と言える。

これだけのボリュームがあるだけに『武功夜話』が初めて明らかにしたことは枚挙に暇がない。織田氏が尾張へ入国し、応仁の乱に至るまでの事績は地元でもあいまいなことが多いが、同書はこれらについてもいろいろと書き留めている。また、尾張の統一というと信長とされているが、その3代前の清須城主織田敏定がすでに成し遂げていた。

『信長公記』は信長の父信秀の死を「三月三日御年四十二」と書くだけで、肝心の年号を記していない。このため没年には天文18（1549）年、同20年、同21年の3説があり、万松寺で葬儀が営まれた20年、同寺の過去帳に記載された21年が有力視されてきた。先ごろ出た『新修名古屋市史』は迷いながらも「天文二〇、二一（一五五一、二）年ごろ、おそらく天文二一年三月三日に死去」としている。

これに対して『武功夜話』は信秀の死を「天文十八年」と明記し、「喪を秘して只管（ひたすら）隠し置くこと両三年」と書く。万松寺の葬儀は18、19、20と数えた3回忌の追善供養であり、同寺の過去帳は19、20、21と数えて3年間の“秘喪”を忠実に守っていた。この間は当時16歳だった信長の成長を待つのに必要な期間だったのだろう。

これに教えられた地元の郷土史家尾畑太三氏はその著『証義・桶狭間の戦い』で『信長公記』の著者が3年間の“秘喪”を守るため、事実をねじ曲げたり隠すなど、様々小細工をしていることを〝発見〟された。いちいち触れている余裕はないが、少なくとも「首巻」はそのまま素直に受け入れることはできない。

『信長公記』が書かれて400年以上になるが、そのカラクリを見破ったのは尾畑氏が初めてである。遺跡や遺物が発掘されると大きなニュースになるが、この事実を〝発見〟されたのはそれらよりはるかに優ると言えよう。これを在野の人がしたのに頼もしさを感じる。

『武功夜話』には信長・秀吉によって天下が統一されてしてゆく過程が克明に記されている。単に東海地方の史料としてだけではなく、全国各地にとっても有益な戦国史料となり得るものだ。今回の出版により、各方面からの多彩な検証が待たれている。

同書が明らかにしていることを挙げ出したら切りがない。小右衛門は秀吉の股肱の臣として身近にいただけに、秀吉の事績については特に詳しく書き込まれている。彼は朝鮮の役で軍監として指揮を執るが、同地での戦いやその苦悩ぶりも生々しく書かれていたりする。

貫かれてきた「門外不出」「他見無用」

これだけの本が秘蔵されてきたのには理由がある。小右衛門とその子景定が秀次事件に連座して自害していること、『武功夜話』の著者孫四郎の娘千代女らがキリシタンとして処刑されたことが挙げられる。加えて徳川の世となり、信長や秀吉時代のことを公表するのははばかられた。

『武功夜話』各巻には巻頭に「此之本貸出之儀、平に断るへし」との書き付けがある。ために「門外不出」「他見無用」とされ、箱に入れて蔵の奥深くにしまい込まれた。これを活字化された蒼生雄氏は「家の裏にある左右2軒の分家をはじめ、前野村と近在の親類にいたるまで、一切公開されていない」と語っておられる。

蒼生雄氏が活字化に取り組まれたのも、当初は6巻までを身内だけに配ろうと考えてのことだった。しかし、これまでにない内容に出版社側が注目し、話は全巻の翻刻へと発展していった。翻刻の背景には「子孫のために書き残しておいた文書を、自分たちが読まずにいてどうする」との強い意志があった。

原文を見られないまま偽書説が独り歩きし、このごろは『武功夜話』と聞くだけで「偽書でしょ」と言う人もいる。歴史学部に席を置く学生が卒論の対象に選んだのに、教授から「ふさわしくないのでは」と指摘されたという話も聞いた。それというのも原文に当たれず、研究対象にはしがたいからだ。

今回の影印本の出版はまさにこうした状況に応えようとしたものである。これによって研究のマナイタだけは提供することができたと思っている。とりわけ間違った先入観を持たない、若い人たちの〝これから〟の研究に期待したい。

同家には単に『武功夜話』という本があるだけではない。書くために参考にされたと思われる史料、先祖伝来の文書や遺物などがたくさん残されている。これだけ膨大で詳細かつ具体的なことを、一人の手で創作・作文できるとはとても思えない。

信長・秀吉の政権確立への道をこれほど詳しく書き込んだ本もないのでは

ないか。ここには戦国史の暗黒大陸が眠ったままにある。各分野からそれぞれの視点で、研究に取り組まれていくのを切に願っている。

完結し終えて、次の段階へ

影印本出版の一方で、一般にも分かりやすいよう『尾張の戦国時代』と題した本も出してきた。①の副題は「『武功夜話』が解き明かす尾張守護代織田氏の流れ」、②は「信秀から信長へ『信長公記』のウソ・マコト」。いま③「織田信長の尾張統一　稲生合戦と浮野合戦」（仮題）を書いているところで、信長の岐阜進出までを5冊程度にまとめる予定でいる。

作ったからには活用しなくてはいけない。影印本をテキストに「武功夜話を原文で読む会」を企画したが、新型コロナの影響でいまだに開けずじまいでいる。コロナが治まり次第、開始するつもりだ。

出版した本はパソコンで文字だけを拾い、121%に拡大している。シミや黄ばみ、地の汚れなどあってそれなりに苦労したが、出来上がったいまはそれらをみんな忘れてしまった。原本以上に読みやすくなっているはずである。

たった一人の超零細出版社に、こうした出版の機会を与えて下さったのを、何よりもありがたく思い感謝している。40余年の間に数百点の本を出してきたが、後世まで残るのはこれくらいではないかとさえ思えてくる。無事に完結できて、いまは密かに喜んでいる。

＊

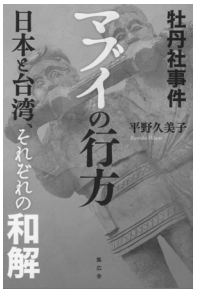
※本は各巻本体3500円＋税。巻1から巻4までは200部、巻5から巻21までは100部制作。平均160頁前後。

（ふなばしたけし　ブックショップマイタウン代表）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『牡丹社事件　マブイの行方 －日本と台湾、それぞれの和解　増補版』●平野久美子著



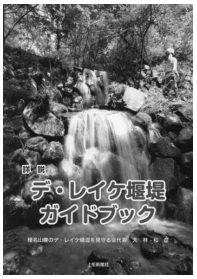
1871（明治4）年、八重山諸島から琉球王府に年貢を納めた貢献船が、帰路大嵐に遭って台湾西南部に漂着し、船頭ら69名のうち54名が、先住民パイワン族によって斬首された。当時、琉球を管轄していたのは鹿児島県、台湾を支配していたのは清国という複雑な関係にあった。おりしも、日本国内は政情不安にあり、その眼を海外にそらそうとしていた明治政府は、清国に賠償を求めたが拒否されるや、好機とばかり、1874年に台湾出兵を断行する。併せて「牡丹社事件」と呼ばれるものである。

台湾の日本統治時代に深い関心を持って取材を続けている著者は、この事件が、日本、沖縄、中国、台湾の近代史に重要な意味をもつものであるとの認識から、遭難者とパイワン族の末裔のもとに足繁く通い、信頼を得て、互いの文化と民族の歴史を学び、マブイ（魂）の交流と鎮魂を願う。2005年、パイワン族の一行が沖縄を訪問、遭難者遺族と面会して謝罪し、堅く手を握り、肩を抱き合うという奇跡が起こる。だが、パイワン族もまた被害者である台湾出兵の根は深く、その後、台湾内の遭難記念碑が日本の侵出に起因する事件であるかのように書き換えられたりもする。遺族のわだかまりも拭い去られたわけではない。

どうしたらこの葛藤を乗り越えられるのか。「歴史は両方の側から見ないと歴史にならない」。パイワン族の末裔から聞かされた言葉が印象的である。（飯澤文夫）

◆2000円・四六判・326頁・**中国書店（集広舎）**・福岡・202105刊・ISBN9784867350102

『詳説　デ・レイケ堰堤ガイドブック』●大林和彦著



明治政府は日本の近代化を目指すために、ヨーロッパから多くの技師たちを迎える。砂防・河川の分野では、明治6年オランダ技師デ・レィケが来日した。彼は全国の山や川を踏査し、日本の急峻な河川の特徴に基づき堰堤工事、河川改修工事を指導した。堰堤の役割は、土石流の減勢、斜面崩壊を抑え、植生を促進させる水源山地の荒廃を防ぐことにある。よって土砂災害、水害の減災を図る目的を持っている。明治15～18年度にかけて、荒廃していた群馬県榛名山麓一帯にデ・レィケ堰堤が施工された。平成２８年以来「榛名山麓のデ・レィケ堰堤を見守る会」の人達が、荒廃したそのデ・レィケ堰堤を掘り起こし、復元させ、その価値を見直す活動をしている。この書はその過程を詳細に論じている。①榛名白川のデ・レィケ堰堤の夕日河原4号地では、堰堤本体の両岸袖部に設けられた石垣が河岸の洗堀を防ぐ②唐沢のデ・レィケ堰堤の唐沢1号乙堰堤は唐沢で築かれた最大規模を誇る③十二沢（現・八幡川）の5号デ・レィケ堰堤では、八幡川の現河道から北に数十m離れた杉林の中に存在。天端の縄だるみは目立たない。提体の半分以上が埋没④自害沢川のデ・レィケ堰堤は、施工10基のうち8基を確認⑤滝の沢川・悪沢のデ・レィケ堰堤では、滝ノ沢１１号、悪沢１号・２号の埋没が進んでいる。

見守る会のデ・レィケ堰堤の調査・保全・顕彰の活動には、地域防災の観点から重要なことで頭が下がる。（古賀河川図書館　古賀邦雄）

◆1364円・B５判・111頁・**上毛新聞社**・群馬・202105刊・ISBN9784863522831

『図説古代エジプト誌　神々と旅する冥界　来世へ　前編』●松本弥著

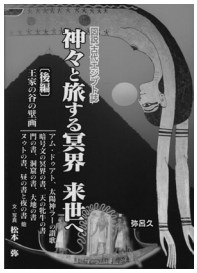
人は死ぬとどうなるのだろうとは、人類が止むことなく延々と問うてきたことであるが、各時代、各地域で様々な伝承や宗教、哲学が、それに対する答え、というより仮説を提供し、人々はその時々、仮の安心感を得てきた。古代エジプトにおいては、それはどのようなものだったろう。本書では、この古代エジプトの死生観について、ピラミッド内部や棺、副葬品に書き残されたテキストや図像を見ながら初心者にもわかりやすく解説していく。その死生観の基本的な図柄は、現世での死後、だれもが「来世」で復活し、永遠の命を得ることができるというものであった。

この「来世」は仏教的な輪廻転生を前提とした、死後しばらくして再び生まれ変わった地上での次の人生、という意味ではなく冥界に存在する楽園での永遠の生のことである。死者の魂はここで現世と同じような生活を営むとされる。

前編となる本書ではまず、ピラミッドの通廊や玄室に書かれた、王の死後の生のために唱えられた呪文の集成である葬祭文書、いわゆる「ピラミッド・テキスト」を取り上げる。さらに王以外の州侯や役人等地位ある人々の棺に書かれた「コフィン・テキスト」、そして、時代が下り、有力者以外の多くの人々の副葬品となったパピルス文書「死者の書」についても解説する。読み進めると様々な王名や王朝名が登場するが、巻末の略年表がとても役に立つ。またところどころ、古代エジプトの象形文字であるエログリフについての説明もある。（N）

◆2200円・A5判・143頁・**弥呂久**・東京・202104刊・ISBN9784946482380

『図説古代エジプト誌　神々と旅する冥界　来世へ　後編』●松本弥著



古代エジプト古王時代の王たちのピラミッド玄室や回廊に書き残されたいわゆるピラミッド・テキスト、柩に書かれたコフィン・テキスト、そして庶民に至るまで副葬品としてのこされたパピルス文書「死者の書」等を解読しながら古代エジプトの死生観を詳細に解説した前編に続き、この後編では、「王家の谷」の壁画をもとに古代エジプトの死生観にさらに詳細に迫っていく。「王家の谷」は3550年ほど前、新王国時代第18王朝（前1550年頃）から第20王朝（前1000年頃）までの王、王族が葬られた墓地である。エジプトの王墓は古王朝時代や中王朝時代のピラミッドに代表されるように王の威厳を示すものであったが、副葬品である宝物の盗掘被害を避けることができなかった。そこで、王家の谷は屏風のように聳える岸壁のすぐ後ろに回り込んだところに設けられたのである。その王家の谷の最古となる王墓造営に携わった建築家の墓碑には次のように記されているという。「私は秘密裏にされている。陛下のために墓の開削を視察しました。誰も見ることなく、誰も聞くことなしに」。しかし、やがて、王家の谷は公然の秘密となってしまい、盗掘の被害を避けることはできなかったらしい。これら王家の谷の初期の壁画には、太陽神が日没後どのように冥界（夜）を進んでやがて復活するのか、が描かれている。王はその太陽神とともにある。あるいは太陽神そのものであるとみなされていた。だがやがて、冥界だけでなく天を移動する太陽の重要性が強調され墓内部全体で宇宙観まで表現されるようになっていった、という。（N）

◆2000円・A5判・127頁・**弥呂久**・東京・202104刊・ISBN9784946482373

『近江の陣屋を訪ねて』●中井均著

江戸時代の滋賀県といえば彦根藩が井伊家の名とともによく知られているところではありますが、それ以外にも幾つかの藩が存在していました。その中でも石高が低い大名たちは城を持っていませんでした。彼らが住まい、あるいは藩政の拠点としていた場所を陣屋と呼びます。

本書ではかつて滋賀県にあった陣屋について詳しくガイドしてくれます。陣屋は幕末の仁正寺藩陣屋のもので約90メートル四方。中世の城跡を活かして建てられており、周囲には家臣団の住む武家屋敷がありました。あるいは宮川藩では当主は江戸詰めの定府大名だったため、地元に常に詰めているのは一人程度だったといいます。明治維新を迎えて藩主が始めて地元に住むことになりましたが、そのために新しい藩庁と家臣団居住地は新たに造成されなければならないほどでした。しかし小さいながらもそこは大名の拠点。陣屋は城に比べれば小ぢんまりとしていますが、街並みとともにコンパクトにまとまっているところはその魅力のひとつかもしれません。今もいくつかの武家屋敷は残っていますし、藩主一族の墓地がある寺院などもあります。また町割りなどにもかつての陣屋町の姿の名残をとどめています。ただそうした遺構もあまり顧みられることなく、次々に姿を消しているようです。

本書によって広く陣屋とその街並みが持つ佇まいの魅力に触れていただき、姿を消そうとしている建物や遺構の価値も再認識されればと思います。（副隊長）

◆2000円・A5判・104頁・**サンライズ出版**・滋賀・202103刊・ISBN9784883257232

『うつモンスターがやってきた！ママ、どうしたの？』●みやざきなおみ訳 / エルドムート・フォン・モッシュ著

リケは絵を描くのが好きな５歳の女の子。トミーはまだ赤ちゃんのリケの弟。２人のママのロシーはお花屋さんで、家の庭では野菜も作っている。パパのベルントは会社で仕事がたくさんあるから、余りうちにはいないけれど、お休みの日はリケとトミーと遊んでくれる。４人家族で幸せな日々を送っていたリケだったのに、ある日曜の朝、いくらベッドで待っていてもママが起こしに来てくれない。待ちきれなくて飛び出すと、ママはまだベッドの中だった。とても悲しそうで「どうしたの？」と訊いても答えてくれない。仕事も休んでいるのに、誰も何も教えてくれない。ママはリケのことを怒っているのかな？　不安でいつもとは違う暗い絵を描いてしまうリケ。やっと起きてきたママが話してくれた。ママを疲れさせ、落ち込ませる『うつ』っていうものがママの心から気持ちを盗んでしまい、元気がなくなったというのだ。「それってモンスターみたいなものなの？」恐がるリケを抱きしめてママは言う。「リケもトミーもパパもとても好き。だからモンスターが盗んでしまった楽しい気持ちを取り戻したいから、モンスターを追い出すためにお医者さんへ行くわ」その言葉にやっと安心するリケ。早くいなくなるようにとモンスターの絵を描いて破って捨てて、ママの回復を祈るリケだった。

こころの病にかかった時、小さな子どもにどのように伝えればいいのか？　ドイツ人の著者が自身の体験に基づき、目に見えない病気をモンスターにたとえて分かりやすく説明。ウィーン在住の翻訳者も、こんな本が子どもの頃にあったらよかったのにと思いを馳せる。子どもは不安なことがあると対処するすべがわからず、罪悪感でいっぱいになったりするが、本書のように対応すれば病気が具体化でき、親の愛情も感じられる。ヤングケアラーの存在にもスポットを当て、助けを必要としている子どもに比喩や絵を通して手を差し伸べる暖かな絵本。（Y）

◆ 1600 円・225mm × 225mm 判・44 頁・ラグーナ出版・鹿児島・202104 刊・ISBN9784910372068

地方小出版 流通センター　ジャンル別 新刊案内

2021年5月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆そらとぶこぎん　第５号　鈴木真枝編　石田　舞子編　Ａ５　76頁　９０９円　津軽書房［青森］978-4-8066-0249-1　21/04

◆Ｓ－ｓｔｙｌｅ　０６　ｖｏｌ．６７８　プレスアート編　298mm×232mm　127頁　４５０円　プレスアート［宮城］978-4-503-22335-7　21/06

◆ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ　４９７　２０２１年５月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット［埼玉］978-4-909864-29-1　21/05

◆かまくら春秋　Ｎｏ．６１２　２０２１年４月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　105頁　３２７円　かまくら春秋社［神奈川］978-4-7740-0832-5　21/04

◆くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ　Ｎｏ．２３２　２０２１年６／７月号　中村　泰子編　吉田　真紀子編　Ａ５　80頁　８３０円　フェミックス［神奈川］978-4-910420-06-6　21/06

◆Ｂｅ！　１４３号　Ｎｏ．１７２　今成　知美編　Ａ５　109頁　８７０円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］978-4-909116-25-3　21/06

◆世間話研究　第２８号　世間話研究会編　Ａ５　110頁　１０００円　岩田書院［東京］978-4-503-22327-2　21/03

◆宗教民俗研究　第３１号　日本宗教民俗学会編　Ａ５　128頁　２０００円　岩田書院［東京］978-4-503-22328-9　21/03

◆徳島地域文化研究　第１９号　高橋　晋一編　Ａ４　173頁　１８００円　岩田書院［東京］978-4-503-22330-2　21/03

◆口承文芸研究　第４４号　日本口承文芸学会編　Ａ５　328頁　２２００円　岩田書院［東京］978-4-503-22333-3　21/03

◆明日を拓く　Ｎｏ．２１１　明日を拓く編集委員会編　Ａ５　182頁　２０００円　解放書店［東京］978-4-503-22329-6　21/05

◆仏事　Ｎｏ．２４８　２０２１年５月号　奥村　昇編　Ａ４　86頁　１５００円　鎌倉新書［東京］978-4-503-22321-0　21/05

◆子どもの文化　Ｎｏ．５９９　２０２１年６月号　片岡　輝編　Ａ５　47頁　２９０円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-22338-8　21/06

◆子どもと本　第１６５号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　５９０円　子ども文庫の会［東京］978-4-906075-70-6　21/04

◆戦争と性　第３４号　谷口　和憲編　Ａ５　188頁　１２００円　「戦争と性」編集室［東京］978-4-902432-26-8　21/05

◆セセデ　ｖｏｌ．７２３　２０２１年６月号　朝鮮青年社編　Ａ４　48頁　４８２円　朝鮮青年社［東京］978-4-503-22334-0　21/06

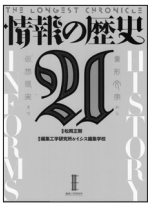
◆東京かわら版　Ｎｏ．５７４

売行良好書

期間：2021年5月15日～6月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『情報の歴史２１』6800円・編集工学研究所　(2)『新・山野の鳥　改訂版』600円・日本野鳥の会　(3)『書評七福神が選ぶ、絶対読み逃せない翻訳ミステリベスト２０１１－２０２０』1800円・書肆侃侃房　(4)『絵本　筑豊一代』1500円・石風社　(5)『リト』1200円・モナ森出版　(6)『銀河鉄道の夜・四次稿編　第２巻』1700円・風呂猫　(7)『たぶの里』1200円・ナナロク社　(8)『石井桃子の日本昔話』700円・東京子ども図書館　(9)『あなたにとって文学とは何か』500円・忘羊社　(10)『食は薬なり』1200円・金壽堂出版　(11)『戦場の漂流者・千二百分の一の二等兵』1800円・弦書房　(12)『江ノ電の四季』1000円・江の電沿線新聞社　(13)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』800円・リーブル出版　(14)『絹と十字架』2200円・弦書房



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『昭和プロレスマガジン　５５』909円・昭和プロレス研究室　(2)『本の雑誌Ｎｏ．４５７　２０２１年７月号』667円・本の雑誌社　(3)『東京かわら版　Ｎｏ．５７４　２０２１年６月号』545円・東京かわら版　(4)『パズル通信ニコリＶｏｌ．１７５』1000円・ニコリ　(5)『天才による凡人のための短歌教室』1200円・ナナロク社　(6)『奥多摩登山詳細図（東編）全１４８コース』900円・吉備人出版　(7)『日々翻訳ざんげ』1600円・本の雑誌社　(8)『新短歌教室の歌集１』1600円・ナナロク社　(9)『新・山野の鳥』600円・日本野鳥の会　(10)『Ｔｒａｎｓｉｔ』1700円・ナナロク社

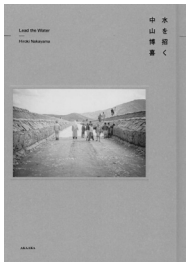
［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(2)『絵本　筑豊一代』1500円・石風社　(3)『直向に勝つ』1900円・忘羊社　(4)『熊本藩の武術』2400円・ツーワンライフ　(5)『イーハトーブ山学校』1300円・岩手日報社　(6)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版　(7)『<沈黙>の自伝的民族誌』3500円・北海道大学出版会　(8)『忘れられた人類学者（ジャパノロジスト）』2000円・忘羊社　(9)『威風凛々　烈士　鐘崎三郎』3000円・花乱社　(10)『伊達の国の物語』2000円・プレスアート　(11)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(12)『自然治癒はハチミツから』2000円・鉱脈社　(13)『江ノ電の四季』1000円・江の電沿線新聞社

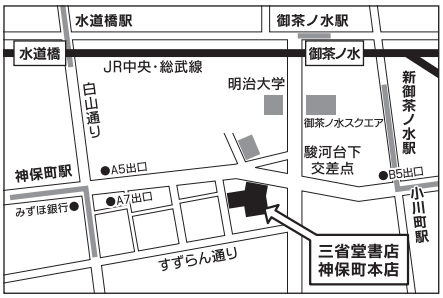
以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼アフガニスタンで医療活動に加え、用水路建設などに取り組みながらも、2019年12月に現地で何者かに殺害された中村哲医師の現地での日常を切り取った写真が、2021年5月27日～6月21日、リコーイメージングスクエア東京ギャラリーAで開催された中山博喜写真展「水を招く」で公開されました。これに合わせて、写真集【水を招く】(ISBN9784865411386・本体価格2700円)が赤々舎から刊行されています。赤々舎代表の姫野希美氏の推薦文によれば、これら多くの写真は「作家自らが再発見した貴重な写真群」であるとのことです。「個人的な記録・記憶としてしまわれていたそれらの写真は、やがてその意味を変え、私たちに届けられたのです」。写真展に向けた中村博喜氏のコメントが公開されています。「本展覧会で展示する写真は全て、私がNGO団体・ペシャワール会の現地ワーカーとして、パキスタンとアフガニスタンで活動していた時期に撮影したものです。2006年に帰国したので、かれこれ15年以上も前の話になります。ペシャワール会は、現地で医療活動を行っていた中村哲医師を応援することを目的として結成された団体ですが、未曾有の大旱魃に直面したことにより、医療活動に加えて、井戸掘り、水路事業、農業と、現地での活動内容は大きく変化しました。現地で働いていた5年間、私は仕事の合間を縫って写真を撮っていました。そこには、国籍や性別、年齢も職種も関係なく、当時一緒に仕事をしていた同僚たちが写っています。時にはやんちゃで、それこそ大いに悩ましい問題を巻き起こす連中もいましたが、みんな中村先生と志を共にし、逞しくもユーモラスに活動してきた人たちです。　彼らの奮闘は今もなお続いていて、彼らの家族や現地に生きる多くの人々の暮らしを支えています。それぞれが果たす役割は異なれども、一人ひとりが常に自分の人生を懸命に生きている彼らの姿に、中村先生の言っていた〈一隅を照らす〉という言葉を思い出すのです。」



（リコーイメージングスクエア東京HPより）

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店
BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。